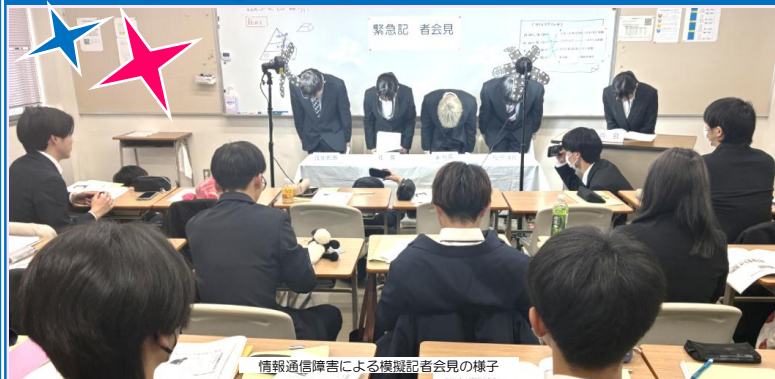




1 新聞記事を学びに活かせ



情報通信障害による模擬記者会見の様子

本校では、IT技術者としての学びに新聞を活用しています。1年生の授業では、過去に発生した通信障害に関する記事を題材に、事故を起こした通信企業と新聞社に分かれ模擬記者会見を実施しています。

学生は4グループ（4～5人）に分かれ、新聞記事を読み込み、通信企業役としてのポジションペーパーと想定問答を作成します。新聞社役としては、同じ想定問答を活用します。

模擬記者会見は、通信企業役のグループに対し、他の3グループが新聞社役で問答を繰り返していきます。

スポットライトを浴びながら、通信障害による社会的な影響を再認識し、ライフラインを支える企業としての責任を仮体験する機会になることを目指しています。



質問で手を挙げる新聞記者役の学生達

2 新聞コンテストに向けて!



新聞を読む学生達



新聞を読む学生達

第4回「新聞スクラップコンクール」の作品提出に向け、学生たちは新聞を読み込んでいます。選んだ記事を要約し、IT技術者としての感想を手書きで仕上げるものです。

新聞を学びに活用する実践について、学生からは、「新聞を読むことで、世の中の情報や課題について考える機会となった」、「新聞をあまり読んだことがなかったが、新聞の魅力を感じることが出来た」、「新聞での学習を通じ、語彙力や社会人基礎力の重要性に気づけた。多角的な視点を得られ非常に有効だった」などの声がありました。

3 模擬記者会見



本校では、テキスト『ITリーダーのための新聞活用トレーニング』を活用し、社会人基礎力の向上を目指しています。

ここでは、本年実施した模擬記者会見を体験した学生の感想を紹介します。

◇感想

●相田泰我さん(水戸商高卒)

社長役となったが、社長に対しての目線が皆鋭く、言葉選びをミスしたら重大なことになる事に気づけた。



●黒澤麻衣さん(佐和高卒)

新聞記事を読んで、自分事として考え整理し、自分事として記者会見を実践したことは貴重な体験だった。学びになった。

●滝本陽姫さん(常磐大高卒)

事故のことを新聞記事で深く知り、被害状況を頭に入れて記者の質問に対応したが、すごく大変だと感じた。

●千葉春奈さん(多賀高卒)

新聞記事を、ここまで読み込むことが人生の中でなかったので良い経験になった。

各々が協力して準備していく中で、チームワークや、対応力が身に付けられた。

●藤井春太さん(水城高卒)

新チームで協力し、事故対応を実践的に学べたことがとても有益だった。

情報技術者としての社会的責任を実感することができました。

●佐藤大輝さん(石岡一高卒)

完璧に説明しようとして臨むより、「相手の怒りや不安に寄り添う姿勢」が大切だと感じた。



●水地穂史さん(常磐大高卒)

模擬記者会見のロールプレイをしたことで、自分からより学ぼうと動くことが出来た。主体性が大切だと考えた。

●間宮一輝さん(水戸南高卒)

自分たちが事故を起こした会社側の立場になることで、事故を報道した記事をより深く読み込むことが出来た。

●本橋梨心さん(土浦三高卒)

今まで他人事として見ていた記者会見だったが、実際に模擬記者会見を体験したことで、違った視点で見られるようになった。



●飯田星矢さん(取手二高卒)

経験することがなかなかできない記者会見を、ロールプレイで体験することができて良かった。

